

第2回「田園回帰」に関する調査研究会

－ 議事概要 －

1. 日時：平成30年1月26日（金） 10：00～12：00

2. 場所：中央合同庁舎第2号館5階 選挙部会議室

3. 出席者：以下のとおり（敬称略、委員は五十音順）

（委員）小田切 徳美 座長、阿部 巧 委員、小林 陽子 委員、作野 広和 委員
永沢 映 委員、藤山 浩 委員、山内 昌和 委員

（総務省）池田地域力創造審議官、門前過疎対策室長、佐藤課長補佐、小野課長補佐

4. 議事：

- （1）過疎地域の人口移動について
- （2）過疎地域への移住者に対するアンケート調査結果について
- （3）過疎市町村に対する調査結果について

5. 主な発言内容：

（1）過疎地域の人口移動について

- ・分析結果を見る際には、人口移動は20代、30代といった若年層の割合が高く、その年代の人口が全国的に減少しているということを考慮する必要がある。
- ・平成12年から平成27年は、特に地方都市の経済が悪化した時代で、過疎地域の地方都市では転入者が減っているが、その縁辺地域では移住者が増えているということが考えられるので、地理的な分析が非常に重要。
- ・地図化したことによって、過疎地域の小規模な区域で人口が増えたり、若い人が増えたりしていることが見事に描き出されている。
- ・中国地方や四国地方の県境の地域では移住者が増えている区域が多く、30代ではその傾向がより顕著になっている。30代までの年齢の移住者が多いこと、出生率が高いことが相まって、若い層が増えるということが、実際に起こっていると感じている。
- ・移住者数といった量的な評価だけではなく、「田園回帰」した人たちが地域にもたらす質的な貢献についての評価も考える必要があるのではないかと。

(2) 過疎地域への移住者に対するアンケート調査結果について

- ・移住コーディネーターとしての実感と今回の調査結果は概ね合致している。昨今、単身の移住者がすごく多くなっているの、その支援にも力を入れていかなければいけないと思う。
- ・移住者の田園回帰志向を分析しているのは非常におもしろい。自らが望む生活を実現するためのライフスタイル移動と転勤などのライフサイクル移動についていえば、ライフサイクル移動は高齢化が進んだり、経済活動が停滞したりすることによって減少していると考えられるので、移住者が増えている区域ではライフスタイル移動がかなり増えているといえるのではないか。
- ・都市部から農山漁村地域への移住者を増やすために必要だと思う支援等についての設問では、男性の仕事志向、女性の暮らし志向が見えているのではないか。
- ・転居先の地域に友人・知人が住んでいる人の割合がこれだけ高いのはすごいことだと思う。継続的に地域づくりの取り組みをしているところでは、人が人を呼ぶということがあると思う。
- ・Uターン、Iターン、Jターンに分けて、田園回帰志向をもつ人かどうかなどを分析すると、さらに多くのことが浮かび上がってくるのではないか。

(3) 過疎市町村に対する調査結果について

- ・移住・定住促進施策の実施状況や開始した年度に地域ブロックで差が出ている。特にどの施策が移住動向に関連がありそうなのかということについては慎重な評価が必要である。
- ・西高東低といわれる中で、東日本で移住者が増加している市町村は何が違うのかを分析すると要因が見えてくるかもしれない。
- ・移住理由について、「移住・定住の支援施策に魅力を感じたから」と答えた人の割合が低いことから推測すると、市町村が実施する施策と移住・定住を求める人たちのニーズとのミスマッチがあるのではないか。
- ・自治体の移住施策は、やや縮小傾向になりつつある。特にセミナーは無駄だからやめようという話にまでなっている。その中で、移住促進を後発で始めた自治体の巻き返しの方法としてどのようなことがあり得るのか。
- ・これだけのデータが集まっているのだから、これを踏まえて自治体や国の施策をどのように効果的なものにするかということに活用していただきたい。

以上